ほっかいどう

-般社団法人北海道老人保健施設協議会

VOL.

2023年1月

特集

03

くばか

様な

天現する心得

般社団法人STRヘルスケアグループ常務理事

介護老人保健施設ゆとりろ **介護老人保健施設いきいき**

事務連メンバーのご紹介 02

ろうけん拝見 06 道南エリア「コミュニティホーム八雲」 「いなほ」

「第29回北海道老人保健施設大会」 問題報告&参加者アンケート結果

TOPIX

80

支援相談員のリレーコラム Vol.4

ろうけん拝具

社会福祉法人渓仁会介護老人保健施設

社会福祉法人雄心会 介護老人保健施設 いなほ

社会福祉法人渓仁会 介護老人保健施設 コミュニティホーム八雲

入所定員 90名 通所定員 55名 超強化型

地域ニーズをとらえ 在宅生活を後押し



二海郡八雲町栄町13番地1 TEL 0137-65-2000



△ 左から渡邊さん、木村さん、安田さん、佐藤さん、今野さん

"耳吊り"が在宅復帰のきっかけに

太平洋と日本海の二つの海に面し、酪農や 漁業が盛んなことでも知られる八雲町。「コミュ ニティホーム八雲」では、こうした地域性を活か した在宅復帰に取り組んでいます。

キーワードは、ズバリ"耳吊り(みみづり)、---。 これはホタテの貝殻の耳と呼ばれる箇所に穴を 開けて糸を通し、ロープに吊るして育てる養殖 作業のことで、八雲の春の風物詩です。「この 繁忙期だけご家族による自宅介護が難しく なって入所するケースは以前からあり、数少 ない在宅復帰につながっていました」と副施 設長の安田智昌さんは振り返ります。同施設

ではこの成功例をもとに、夏は農作物の収穫 さんは話します。



手慣れた手つきで ついた餅を丸めて 鏡餅を作る利用者

期で忙しくなる農家さんに、冬は越冬入所の タイミングを意識するなど、一年を通じてさま ざまな入所ニーズに対応することにしたの です。ケアマネジャーへの地道なPRも功を 奏し、少しずつ在宅復帰やリピート利用が 増加、地域に老健施設としての役割が浸透 していきました。「退所時には、レスパイトと してのショートステイ利用も案内して家族の 負担軽減も図り、在宅生活を後押しできるよ うになりました」と経営管理部次長の今野隆

満場一致のロボット選び

「スマートスーツ」を

こんな体勢でも 腰を痛めず ラクですよ! by渡邊さん

限られた人材で適切なケアを提供するため、 同施設では補助金を活用し、介護ロボットなど の最新機器を積極的に導入しています。睡眠 状態を把握する見守りシステムをはじめ、移 乗介助をラクにするシステムやベッドのほか、 姿勢を改善して腰痛軽減を図るサポーターも 取り入れ、働く環境改善を目指しています。こ れらを効果的に使うポイントについて介護課 課長の渡邊貴弘さんは、「購入前にデモ機で 使い勝手をしっかり試し、現場職員全員の感 想や意見をしっかりまとめることです」と説 明。最近は、ノーリフトケアの取り組みも少し ずつ進めているそうです。

捻出できた時間で、小まめなショートカン ファレンスの実施やリハビリにも注力。セラピ ストは3職種がそろうほか、2021年からは 歯科衛生士も採用したことで介護職も適切な 口腔ケアが可能となり、肺炎による入院は 減少傾向にあるとか。理学療法士の佐藤真澄 さんは、「コロナ禍ですが、ADLやQOL向上の ためにも買い物などの外出行事はできる限り 継続したいですね」と言います。

昨今は、看取りニーズも増加。居室に思い出 の写真や制作物を飾り、本人が食べたいもの を可能な限り提供しています。「先日も『ホッケ を食べたい』と望む利用者さんに提供し、喜ん で召し上がっていただけました」と看護課課長 代理の木村弥生さんは振り返ります。

目下の課題は医療との連携です。「ポリファー マシーをはじめ在宅での問題は多くあります。 病院との連携を強化し、ともにより良い支援に 取り組んでいきたい」と皆さん決意を語ります。

こがわから 間です

着用して車椅子を押すスタッフ

腰痛軽減以外で、介護ロボット導入による メリットを教えてください

冷たく感じられる恐れもありますが、テクノロジーが 介護技術の個人差を埋めることもあると考えています